

2022年10月23日 午前礼拝
「喜びの礼拝」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】

マタイ 2:1~11

1. イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。
2. 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」
3. それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。
4. そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
5. 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」
6. 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』
7. そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。
8. そして、こう言って彼らをベツレヘムへ送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」
9. 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。
10. その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。
11. そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

【説教要約】

マタイの福音書を順に見ていますが、先回はイエス様がお生まれになる経緯についてでした。奇跡によって処女マリヤから生まれ、マリヤの夫ヨセフも信仰によってイエス様を受け入れました。無事に救い主がこの世に誕生したのです。

しかし、これでめでたしめでたしと放っておかれないのが神様です。神様は、すべての人にイエス様を証されて、「あなたはどうしますか」と問いかけられるのです。それはイエス様がまだ幼い子どもであっても、変わらないのです。

今日見ていくのは、「救い主がお生まれになった」と知った3種類の人々についてです。みな神様から「礼拝に来るように」招かれたのですが、反応は全く違うものでした。

① 恐れた人々

マタイ 2: 1~3

1. イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。
2. 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」
3. それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。

きっかけは、東方の博士たちが当時のイスラエルの首都エルサレムにやって来たことから始まります。東方とは、当時のバビロンやペルシャのあったところだと考えられます。今でいうイラクやイランのあたりです。イエス様のおられるベツレヘムから 700~1000 kmほどあります。そこからこの博士たちは旅をしてきたのです。当時では、およそ 1 か月かかる距離です。

神様が救い主の誕生を告げ知らせたのは、そのような遠い国にいる人々に対してでした。この人たちを通して、神様は「救い主がお生まれになった」ということをエルサレム中に証されたのです。この東方の博士たちについては、後程見ていきます。この東方の博士たちは、「ユダヤ人の王はどこですか?」と尋ねてきたのです。「ユダヤ人の王」、聖書ですと約束されてきた救い主が生まれたと聞いて、ヘロデ王とエルサレムの民は恐れしました。

なぜ恐れたか知るのに、このヘロデについて少し説明が必要です。

新約聖書には何人かヘロデという王が出てきます。それは苗字のようなもので、全員が同じ人物ではありません。ここに出てくるヘロデは、一番初めに権力を持った人で、一般ではヘロデ大王とも呼ばれます。他のヘロデは、このヘロデ大王の親類です。

ヘロデは、かなりすごい人物でした。すごいというのは、優れているということではなく、「天才だが横暴で、偏執的」と言えます。彼は、建築の天才です。カイザリヤの港は、初めて海中にコンクリートを流し込む技術で人工の港を造りました。マサダ要塞は、死海ほとりにそびえたつ台地の上に、ローマ風呂も完備された宮廷を造りました。またヘロデウムという住まいもそうです。そして最もすごいのが、エルサレムの神殿の大改修です。紀元前 20 年頃に工事を開始して、完成したのはなんと、84 年後の紀元後 64 年であったと言われています。

その一方で、ヘロデは横暴な王でした。特に晩年になると偏執になっていきます。その理由は、ヘロデは聖書の民ユダヤ人の王でしたが、血筋としてはユダヤ人ではなく、雇われの王だったのです。それで、民に王様と認められたいがために建築を頑張りました。努力と、実力で王を続けていたのです。

しかし晩年は、ユダヤ人の血筋である妻や息子といった家族をみな殺しました。妻のマリアンメと二人の息子を殺害しました。別の妻の息子も殺害、妻の兄弟とその母親も殺しました。また彼女の祖父も殺します。おかしいことに、ヘロデはマリアンメを自分が殺しながら、彼女の死を悲しみ、激しく号泣します。

ルカ福音書にも名前が出てくる皇帝アウグストは、「ヘロデの息子になるよりは、ヘロデの豚になったほうが、まだましだ。」とまで言ったのです。後でヘロデがベツレヘムの二歳以下の子を全て虐殺しますが、そういった男でした。

このようなわけでヘロデ大王は、「ユダヤ人の王はどこにお生まれになりましたか？」と東方の博士たちから聞いた時、大変動揺して恐れたのです。「本当の王が来てしまった。自分は王ではなくなってしまうのではないか。」そのような恐れでした。また、民衆も「ヘロデを怒らせたらどうなるか分かったものじゃない」と、ヘロデの顔色をうかがって同じように恐れていたのです。

マタイ 2 : 4~8

4. そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
5. 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」
6. 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』
7. そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。
8. そして、こう言って彼らをベツレヘムへ送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」

ヘロデは聖書に詳しいユダヤ教の教師たちを集めて、キリストがどこで生まれるのか調べました。そして、ベツレヘムで生まれると分かったら、博士たちをベツレヘムに送り出し、調査させるのです。口では「私も行って拝む」ためと言っていますが、本当の目的はキリストを殺すためです。

不思議なのは、ヘロデは聖書を心底信じているということです。「キリストが生まれた」という博士たちの言葉も、「ベツレヘムで生まれる」という聖書の言葉も、真剣に信じているのです。しかし、彼はキリストを殺そうとしています。それは、彼がイエス様ではなく自分を王様にしたかったからです。それで、「救い主が生まれた」と聞いた時、恐れが彼を支配したのです。

恐れは、ひとえに「プライド」から来ています。自分の生活を自分で支配しないといけない、自分というものが壊されてはいけないというプライドです。それが脅かされる時に恐れが出てきます。しかし、礼拝とは、明け渡す行為です。自分のもの、自分の中心、核になるものを超越した方に差し出すことです。そうした、みなが恐れている中でも、それでもイエス様を愛し、従いますという人たちが神様から報いを受けるのです。

ヘブル 10 : 38~39

38. わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのところは彼を喜ばない。」
39. 私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

②無関心な人々

マタイ 2 : 4~6

4. そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。
5. 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。」
6. 『ユダの地、ベツレヘム。あなたはユダを治める者たちの中で、決して一番小さくはない。わたしの民イスラエルを治める支配者が、あなたから出るのだから。』

次に見るのは、ヘロデ大王が集めた聖書の教師たちです。

「キリストはどこで生まれるのか」という質問に対して、すらすらと聖書のことばが出てきます。これは旧約聖書のミカ書の 5:2 です。ずばり、ベツレヘムだと答えるのです。漠然とした答えではなく、はっきりとベツレヘムという村だということまで答えてしまえるほど博識だったのです。

しかし、この聖書教師たちが出てくるのはこの部分だけです。この後、東方の博士たちだけがベツレヘムに行きます。ヘロデや教師たちのいるエルサレムから、イエス様のおられるベツレヘムまでどれだけ遠いかといえば、10 kmほどしか離れていないそうです。歩いて2時間ほどで着く距離だったのです。

ところが、実際にベツレヘムまで出かけたのは東方の博士たちだけでした。そもそも博士たちは、東の国から700 km以上旅をして来ました。それは救い主を礼拝するためです。しかし教師たちは、「ベツレヘムで救い主がお生まれになる」という預言を信じていたのに、その預言がまさに目の前で成就したというときに、たった10 kmの旅を惜しんだのです。

これは、心が神様から離れていたからです。

ローマ 2 : 17~21

17. もし、あなたが自分をユダヤ人ととなえ、律法を持つことに安んじ、神を誇り、
18. みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわきまえ、
20. b 幼子の教師だと自任しているのなら、
21. 21 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。

彼らは、習慣的に礼拝と奉仕と聖書の学びをしていました。

しかし礼拝はしているけれども、神の愛が分からなくなり、その奉仕がマンネリ化していたのです。中途半端になっていたということです。だから、みことばを信じているにも関わらず、預言が成就しようとしているのに、無関心だったのです。

黙示録 2 : 3~5

3. あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れたことがなかった。
4. しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは初めの愛から離れてしまった。

5. それで、あなたは、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行いをしなさい。もしそうでなく、悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなたの燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。

初めにイエス様と出会ったときに覚えた愛、感動。そこに戻る事が必要です。

③喜んだ人々

マタイ 2 : 9~11

9. 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。
10. その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。
11. そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

最後は、東方の博士たちです。

繰り返しになりますが、彼らは 700 km以上、一か月以上旅をして救い主を礼拝しにやってきました。

マタイ 2 : 2

「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」

彼らは、星を観察する天文学者であり、同時に星で占いをする占星術師だったろうと思われる。王様の助言者の立場だったと言われます。彼らは、一つの特別な星を発見するので。その時、聖書の預言が成就したと分かったのです。

民数記 24 : 17

私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。

少し歴史の話になりますが、どうして 700 km以上離れた彼らが、この預言を知っていたのか。それはイエス様の時代より、500 年ほど前になります。

ダニエル 5 : 11b、12

11. b ネブカデネザル王、あなたの父上、王は、彼を呪法師、呪文師、カルデア人、星占いたちの長とされました。
12. 王がベルテシャツアルと名づけたダニエルのうちに、すぐれた霊と、知識と、夢を解き明かし、なぞを解き、難問を解く理解力のあることがわかりましたから、今、ダニエルを召してください。そうすれば、彼がその解き明かしをいたしましょう。」

聖書の民ユダは、不信仰のために一度国を滅ぼされました。その時捕虜となって連れて行かれたのがバビロンという国です。しかし神様は捕虜の一人ダニエルを立てて、国のナンバー2にまでされたのです。そこで聖書と神様についての証がなされていたのです。そのため、イスラエルから700 km以上離れた場所でも、みことばが読まれるようになっていたのです。

預言に書かれた「一つの星」が見えたので、東方の博士たちは旅立ちました。それはこの人たちが「喜んで」からです。彼らの喜びは、700 kmの旅を実行させました。そして、特別な星を見たのは、彼らだけでした。ヘロデ大王も教師たちも見ませんでした。

マタイ 2 : 9、10

9. 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。
10. その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。

ベツレヘムに行こうとするとき、再びこの星が現れて、博士たちを導きました。神様は、信仰によって進もうとする人に、その人にだけ分かる励ましや目印を与えて下さるのです。神様の下さった星によって、彼らは確かにイエス様のおられる家に着くことができたのでした。神様の光に着いて行けば、決してつまづくことはありません。

マタイ 2 : 11

そしてその家に入って、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そして、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。

そして、彼らは「ひれ伏し」「ささげ」ました。

イエス様の両親であるヨセフとマリヤは、貧しい家庭でした。その家の幼子に、国の重鎮がひれ伏しているのです。イエス様は、2000年前にベツレヘムでお生まれになりましたが、全世界の救い主です。すべての時代、あらゆる階級、あらゆる場所の唯一の救い主です。なぜなら、イエス様はただの人間ではなく、天に住んでいたのにそれを捨ててやって来てくださった神だからです。

そのすべてを、東方の博士たちが分かっていたかは分かりませんが、イエス様が全世界の救い主だと信じていたので、身分に関係なくひれ伏したのです。最初に見たヘロデ大王も、聖書の教師も、もしイエス様のもとに来てイエス様を救い主と認めるなら救われるのです。今の私たちも同じです。そして、博士たちはささげ物をしました。黄金と乳香と没薬。これらは王にささげられる高価な品々でした。しかし彼らは喜びから、それをささげたのです。

Ⅱコリント 9 : 7

ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださいます。

これがささげ物、あるいは献金です。ポイントは「喜んで」いるかどうかにあります。今日見てきた東方の博士たちは、救い主が生まれた喜びのゆえに700 kmの旅をし、救い主に会いできた喜びのゆえにひれ伏し、ささげ物をしました。それも、「この上もなく喜んだ」

とあります。この喜びが、力の源、ヘロデや教師たちと異なる点でした。もっと喜んで礼拝をささげたいと願います。イエス様を喜んで日常を歩みたいと願います。

I ペテロ 1 : 8、9

8. あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。
9. これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。